Habitat for Humanity® Japan

HFHJ Newsletter

ハビタット・ジャパン　ニュースレター

第８号　２００７年１０月発行

能登半島地震被災者支援事業・第４次隊　活動報告

ハビタット・ジャパンの国内事業の一環として取り組まれた能登半島地震被災者支援事業の第４次ボランティア派遣プロジェクト「輪島の土蔵修復活動」が８月１２日から２２日までの１１日間、石川県輪島市で実施されました。今回の活動は、特定非営利活動法人ＡＤＲＡ Ｊａｐａｎ（アドラ・ジャパン、住所：東京都渋谷区神宮前1-11-1、URL:http://www.adrajpn.org）との連携のもと、現地で活動を続けている輪島土蔵修復支援活動実行委員会とともに実施したもので、のべ２０名のボランティアが参加しました。輪島には２５０ほどの土蔵があり、そのうち１５０以上が修理を必要としているとのことです。今回の活動では２軒

の土蔵修復に取り組みました。活動内容の詳細はホームページでも掲載していますので、ここでは主な参加者の声をお届けします。

日々の作業はかなりきついけど…

堀　温子

このボランティアへの参加は、今年の夏の特別な思い出となりました。今思い返すと、ボランティアの皆と輪島の皆さんの和気あいあいとした雰囲気と、人情

あふれる温かさがあったからだと思います。「あての家」に着いたときは、少し不安でした。でも、その日の夜にはもうみんな打ち解け、こんなにもすぐに仲良くなれるなんて素敵過ぎです。

日々の作業はというと、かなりきつい。初日の仕事が終わった後、握力がなくなっていました。今後、工事現場で働いている人を見ると、心から「ご苦労様です」と言いたくなるでしょう。仕事が終わると、夕飯の準備や洗濯の役割分担するのがまた楽しく、その後は、足湯に行ったり星空見に行ったり花火をしたりしました。「あての家」で、アメリカの大学生とも話し、チーズバーガー作ってもらったり、日本語教えたり、片言の英語で意外に話ができて、いい思い出になりました。小田原さん、おいしい昼食を用意してくれたおじちゃんとおばちゃん、こんなに人の温かさに浸っていたのは初めてかもしれません。輪島の人はすごく人情あふれ、人間性を学びました。

私は輪島を離れるトップバッターでしたが、みんなと別れる時泣きそうでした。それくらい、ここの生活のこと好きだったんだなあと思いました。今回は、地震の現状とそこに住む人の生活を知ることができ、またボランティアの仲間をもつという嬉しさが得られて、充実したいい経験をさせていただきありがとうございました。

気持ちの分かち合いが「励み」に

岡田　幸二

輪島では、皆様に大変お世話になり、心からお礼申し上げます。

私は、途中から現場監督を命ぜられ、七尾邸の解体作業をしましたが、途中、弱熱中症でダウンされる方が出たりして、監督代行の私としても少々ショックでした。よくやって頂いている皆さんの健康が一番心配でしたが、何とか６日間を無事に終えることが出来て、感無量です。天野邸では、４人の方と組んで黙々と作業を行い、互いに気持ちを分かち合い、今でも連絡を取り合うほど親しくなりました。これは、あちこちで活動を続ける私の「励み」になっております。

２２日午前中まで輪島で活動、その後、新潟・佐渡島で活動をして、今は多

治見の自宅でつかの間の休息を取っております。輪島の復興支援活動も、まだまだボランティアの力が必要かと思います。是非、また参加したいと考えておりますので、どうか今後ともよろしくお願い致します。

第４回年次通常総会が開催されました

去る９月１４日、特定非営利活動法人ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパンの第４回年次通常総会が東京・中野区のハビタット・ジャパン会議室で開催され、前年度（２００７年度）の事業報告案および決算報告案について審議し、満場一致で承認されました。また、新たな監事として伊勢崎賢治氏の後任に松本孝一氏（ＢＰジャパン株式会社石油化学事業部事業部長）を選任しました。伊勢崎賢治氏（東京外国語大学大学院教授）は理事に就任する予定です。

２００７年度は、主要事業であるボランティアプログラムの充実に努め、グローバルヴィレッジ（ＧＶ）参加者は過去最高の４８チーム・７６６人となりました。また、新たな国際事業としてジャパン・プラットフォームの助成を受けた大規模災害被災者救援事業を開始し、昨年５月から１２月まで、パキスタン北東部のバラコートにて住居建築技術支援活動を実施したほか、国内事業として能登半島地震被災者支援のためのボランティア派遣事業を実施しました。

２００８年度は、ボランティアプログラムの業務効率化を図り、ＧＶ参加者のいっそうの増大を目指すとともに、国内事業を新規に開発する計画です。

南アジア水害被災者支援初動調査（バングラデシュ）報告

バングラデシュでは７月からのモンスーンによる豪雨により約1000万人が被害を受けています。ジャパン・プラットフォームからの助成を受け、９月４日から１２日まで現地での初動調査を行いました。

バングラデシュは、ガンジス河、ブラマプトラ河、メグナ河の三大河川の下流部に位置し、国土の約半分が海抜７ｍ以下の低地であり、毎年洪水に見舞われていますが、今年の水量は通常以上でした。ダッカから郊外に少しいくと、農耕地が浸水し、湖のようになっていました。特にチベットとインドから流れてくるジャムナ川（ブラマプトラ河）沿いは家屋や農耕地など多大な被害を受けています。現地での調査中（９月８日前後）に、再びまとまった降雨があったことから再度河川の水位は上昇し、洪水による新たな被害が発生していました。タンガイル県ブハプール郡のアルジュナ、ガブサラ、ニクライル市（ユニオン）をまたぐジャムナ川の被災地を訪問しましたが、中洲にあったいくつもの村が川に沈み、かろうじて高台にある数軒が残っているだけでした。人口約18万人（1991）のブハプール郡では、約10万人が被害を受け、全壊家屋数は1,081軒、一部損壊家屋数は18,581軒と報告されています。

現在被災者の一部は、現地の地方政府が一時的居住を許可した地域に住んでおり、また一部は親戚の家に身を寄せています。また一部は無許可で他人の土地に仮設シェルターを建ててそこに避難しています。調査時に訪れた仮設シェルターの衛生状態は劣悪で、飲料水は管井戸が臨時に引かれていましたが、十分な量が確保されているとはいえない状況でした。

調査地におけるインタビューでは被災者は、洪水の水が引き次第自分の土地に戻り元の生活を送りたいとの意見が多くありました。洪水終息後、政府は避難地からの退去要請を予定しており、立ち退きを強制される可能性もあります。このような状況の中、元の居住地に一時的な住居を建設することは、被災者が今後の復興のプロセスにスムーズに移行するために必要であることはもちろん、現在彼らが置かれている窮状を救うためにも必要不可欠と判断しています。

すべてをなくした避難民にとって、建材の購入は難しい状態です。自らの土地に戻って住居を再建する際には支援が必要ですが、大工作業を行う技術を人々は持っているため、自ら建てることができる簡易住居設置による帰還支援を行う計画です。

（国際事業部・西島　恵）

タイGVリポート：ハビタットＫＵＩＳ（神田外語大学）

所属	ハビタットKUIS
訪問先	タイ／Lampang
サイト情報	平屋建て/ブロック作り(1家族)
活動日程	8/27-9/10(15日間)
メンバー	17名

今回は春に続く２回目のタイ・ランパンということで、少し安心感がありました。街は依然訪れた時と変わらず、ホテルの横にはセブンイレブンがあったりと現代的な面もあれば、屋台が軒を連ねるなどのタイらしさを感じさせる部分もあります。私達が今回お世話になったThe Regent Lodge Hotel Lampangもそんなランパンの街中にある普通のホテルでした。ホテルの設備は良く、お湯の出るシャワーや水洗式のトイレなど、普通に生活するうえで特に困ることはありませんでした。

このような環境の中スムーズにスタートしたランパンＧＶでしたが、今回のＧＶは本当に内容が濃いものとなりました。中でも一番はホームオーナーさんに関してです。今回私達と一緒にワークに参加したポーンさんは、はじめは陽気な性格でワーク中も私達を楽しませてくれましたが、ある日を境に酒に入り浸るようになっていきました。ワーク中も騒いだりと、どんどん落ち着きがなくなっていきました。

聞いた話によると、ポーンさんは本当に私たちのことが好きで好きでしょうがなくて、私達があと少しで帰ってしまうということに耐えられず、夜通し酒を飲むようになってしまったといいます。気持ちは分かるのですが、これから新しい生活をがんばろうという意志の見えないポーンさんを見て、私達のワークに対する気持ちは次第に下がっていきました。また、中には彼の騒ぎように恐怖を感じ始めてしまうメンバーもいました。

事情を聞くと、彼は昔戦争に行き、友達を皆失って以来酒に頼るようになってしまったといいます。そのような話を聞くと、私達が帰るということと、友達をなくしたという経験とが、彼の中で重なっているのではと思いました。今回のＧＶで、立ち直ろうとしている多くの人が、つらい過去を抱えているということを初めて目の当たりにし、改めて自分の生活を変えるというのは簡単ではないということを感じさせられました。

しかし、最終的には私達との別れを理解してくれたように思います。空港にも見送りにきてくれ、ポーンさんも私達もなにも思い残すことなく別れを迎えられたのではないでしょうか。Ｒ＆Ｒで訪れた小学校、孤児院では、私達の方がはしゃいでしまうくらい全力で遊びました。本当、子供といるとすぐに打ち解けることができ、タイ人と日本人だということすら忘れてしまうほどです。

（ハビタットＫＵＩＳ　チームリーダー・清水　篤朗）

JHB参加者の声：ウドンタニで１０００軒目の家を建ててきました！

待ちに待ったタイ・ウドンタニでの一般参加型ＧＶが、８月２５日から９月１日開催されました。参加者は老若男女個性豊かな９名に私を含めた１０名。そして私たちが建てた家は、ウドンタニを含む東北部の支援地で１０００軒目の家でした。

メンバーの笑顔が１日ごとにどんどん輝いていく。皆さんの変化を近くで感じられることが、チームを迎える立場になった私にとって何よりの喜びであり支えとなりました。私がタイにいた証をやっと残せたかなと。参加者の一人が空港のお別れの際言ってくれた言葉があります。「このメンバーで来れてよかった」。今もお守りのようになっている、大事な一言です。

９月７日、私は再びウドンタニへ。１０００軒完成記念パーティーに参加するためです。多くの人に祝福される記念の一軒を建てられたことは光栄なことですが、それ以上に、建てられた一軒一軒の家が確かに存在し、新しい生活が始まり、家族が育まれ続けていることに大きな喜びを感じています。 **（清水 慶子）**

私が今回もハビタットに参加したのは、日本から出たかったのと前回のフィリピンＧＶを思い出したからです。これを思い出すのは、私にとって重要な事。日常に戻るとその時の気持ちをすっかり忘れてしまって、ただ漠然とした日々を過ごしてしまいます。前回お世話になった方の「フィリピンでの気持ちを持続させる事、忘れない事が大切」という言葉は私の大切な言葉になっています。たった一度の人生で、こんな素敵な時間を一緒に過ごさせてくれた皆さんに本当に感謝しています。これからもよろしくお願いします。 **（飯島 あずさ）**

「今年の夏は普段出来ない事をやってリフレッシュしよう」と、なんとなくウェブ上で目に入った今回のツアー。

初めて会う人たちとの集団行動は面倒かな…不安は杞憂に終わりました。これはノブちゃん(こと藤井さん)の人柄によるところが大きい。「無邪気に若者に混じってＧＶに参加する60代」は私の人生の目標の一つになりました。そして頭が下がったのが現地スタッフのサービス精神。土日返上で働いているのにいつもいつも笑顔。私は日常とは違うことがしたくてタイで楽しんでるけど、スタッフにとってはこれが日常。普段不機嫌な自分を反省しました。

とはいえ、東京の生活に戻ると楽しくないことも多い。でもあの家とみんなのニコニコ顔を思い出すと、気分が落ち着く。ウドンタニ効果が薄れてきたら、またＧＶに参加して元気を注入します。**（牧野 けい）**

大変有意義な体験でした。初日は教会へ、そしてサルネリの家を訪問。皆明るく安心しました。午後からは、ラオス国境近くを散策。２日目、建築活動開始。床の土運び、なかなか重労働でした。３日目ブロックの壁作り、だんだん家らしくなってきました。ボム、ピーウィ、チャイ、ナン、ボブ、ペア、タン、ウドンタニのハビタットの協力で半分以上出来上がりました。４日目、全体の３分の２が出来、５日目、午前中建築活動、午後は小学校を訪問。サッカーをしようとボールまで用意してたのですが、生憎の雨で中止。体育館でゲームをしたり、歌って踊って、大いに盛り上がりました。子供たちの元気な姿には、感動さえ覚えました。６日目、最後の日。地域の聾唖者の協力で、床のコンクリート流し、トイレの下水の穴掘り。彼等の働きぶりの良さで早く出来、午後から近所の人や村長さんも集まって、落成式が盛大に行われました。タサニーの統率力には感心しました。

何かと面倒をみて下さった清水慶子さんには、感謝の気持ちでいっぱいです。楽しく、何の支障もなく無事日本へ戻ってきました。ありがとうございました。

（藤井 信也）

ボランティアは初めてでしたが「タイの家族の幸せを建てる！」というところに心動かされ参加しました。

慣れない作業で体がもつか心配でしたが、逆にもっとやりたいと思った程でした。一番心に残っているのは、やはりタイの人々の優しさと笑顔。特に子供達の明るさ、純真さ、目の輝きには、日本の子供達との違いを感じ強い衝撃と感動でいっぱいなりました。子供達の笑顔には、本当に心が癒されました。

今の日本は、食べる物、着る物、住む所などに何不自由なく暮らせますが、心は貧しいのでは？日本の未来はどうなるのか？と考えさせられました。またタイの人々のもつ、目上の人を敬う心や困った人に手を差しのべる優しさなどに触れて、自分自身深く反省しました。一生忘れる事が出来ない経験ができ、すべての出会いに感謝します。**（能登 葉子）**

毎日たくさんの人と会った。たくさん話した。ホームオーナー、ウドンタニのスタッフ、HIV陽性の子のための施設・サルネリの家の子供たち、地元の小学生、一緒に働いた聴覚障害の学生達、その他タイの人達…いろいろな人のいろいろな感情が頭の中で今も渦まいている。まだ整理がついていない。大げさに言えば、自分の人生観も少し変わった。ここでは詳しく書かないけれど、一緒に飲む機会があったら語りましょう。そして、チームメンバーにも恵まれた。ほぼ全ての人とはこの旅を通じて初めて会った。でも旅の終わりには１つの大きなチームになれたと思う。老若男女がそれぞれの役割を持っていて、誰一人欠けてほしくないチームに。**（白取 耕一郎）**

自分達が働くのは5日間でも、ホームオーナーにとっては一生の家。この作業が家族を守ると考えると真剣にならざるを得ない。時にハードな事もあったが、ホームオーナー、スタッフ、学生、彼らの笑顔や冗談のお陰で作業はいつも楽しく、もっと作業していたいとすら思った。外壁が備わり床の土台が出来て我々の作業は完了。屋根と枠組みだったものが、青空の下で家になっていた。

スコールが降った折、現地の男性がトタン屋根の切れ端を持って皿洗いをする女性にかざしていた。自分たちの手伝いが、現地の人にとってこういうものであったらと思った。日本で不意に携帯に収めた家と現地の人の写真を眺める。家の様子や家を囲む人のことを想像すると、何だか楽しい気分になる。**（竹下 昌孝）**

近況報告 HFHJ アップデート Japan Update

グローバルフェスタＪＡＰＡＮ２００７出展決定！！

昨年に引き続き、本年もグローバルフェスタＪＡＰＡＮ２００７に出展することになりました。開催期間中の来場者はのべ７万人余（昨年実績）、国内最大級の国際協力イベントです。多くのハビタットサポーターが集う絶好の機会をお

見逃しなく！！来春の海外建築ボランティアプログラム（通称ＧＶ）詳細やその他疑問質問についても直接お答えします。当日お会いできることを楽しみにしています！

日時：１０月６日（土）・７日（日）
　　１０：００－１７：００
場所：東京・千代田区日比谷公園
（入場無料）

http://www.gfjapan.com/2007/index.html

ハビタット出展場所（テント番号）：0-26　※日比谷公園 日比谷門を入って右にあります。

お笑いチャリティーイベント１０月９日開催決定！

多くの人々にメッセージを発信できる『お笑い』のメリットを生かし、地球温暖化や貧困等、解決すべき地球上で起きているさまざまな問題を広く提言したいという考えのもと発足したお笑いコンビ『すっぽん大学』。彼らを中心に集まった数々の芸人さん達による**お笑いチャリティーイベント『はとライブ』**が下記の通り開催されることとなりました。是非お友達を誘ってライブ会場に足を運んでみてください！！詳細についてはＨＰ上に公開しております。

＜ライブ概要＞
・日時：１０月９日（火）１９時open
・場所：新橋区民会館　４Ｆ 大集会室---
　渋谷区恵比寿１-２７-１０（恵比寿駅徒歩10分）
・料金：入場料５００円

マイハビ・ブログを準備中！

７月から始まったハビ人集会（My Habitat主催）は今月で４回目を迎えました。毎回、一般の方からＧＶ経験者までさまざまな経験を持つ人が集まり、話し合いや情報交換を行っています。また、会場となるレストラン「The Pink Cow」は落ち着いた雰囲気で、オーナーのTraciさんはいつも笑顔で迎えてくれます。この貴重な経験を皆様と共有するために、My Habitatのブログを立ち上げることに

なり、近日中に公開予定です。ハビ人集会の案内・報告に限らず、ハビタットのイベント、ボランティアやスタッフのインタビュー、皆様からのアイディアなども載せていく予定です。みなさま、是非アクセスしてみて下さい！　http://www.habitatjp.org/からアクセスできます。

（太田　歩）

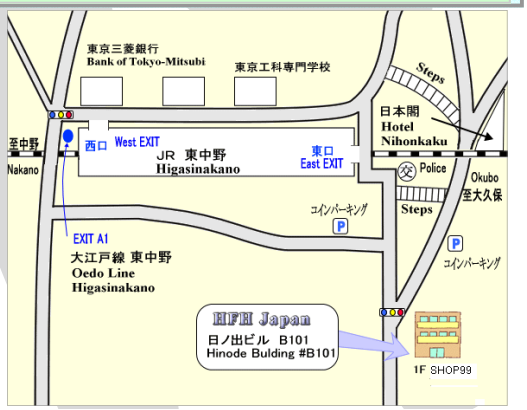
寄付・助成金リスト（2007/7/1～2007/9/14）

みなさまのご支援は、「誰もがきちんとした場所で暮らせる世界」実現のために使わせていただきます。ありがとうございました。（敬称略･順不同）

日 付	寄 付 者 名	支 援 国 指 定	金 額（円）
7月6日	ハビ人ミーティングにて		357
7月9日	カトリック･イエズス会		20,000
7月10日	Monkey Majik		16,556
7月23日	理事会一同		1,690
7月25日	今泉　すず枝		10,000
8月2日	アドラ･ジャパン	能登	300,000
8月3日	内藤　純	能登	3,000
9月4日	スクデリア･アルフェッタ 8.4		3,866
9月12日	三村　紀美子･友人一同	バングラデシュ	10,000

Habitat for Humanity® Japan

ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパンは地域のニーズに基づいたプログラムや個人参加を通して世界中の貧困住宅の撲滅を目指しています。2006年は100以上の国々で、100万人近くのボランティアが参加しました。私たちのエキサイティングな活動に関するさらなる情報をご希望の方はぜひ下記あてご連絡ください！

Habitat for Humanity Japan

〒164-0003
東京都中野区東中野1-45-5　Tel: 03-5330-5571
日ノ出ビルB101　Fax: 03-5330-5572
発行人：安藤　勇　URL: www.HabitatJP.org
編集人：茂木　周二　Mail: info@HabitatJP.org
同：中川ミミ、内田三智子